

## 絨 研

教

# 先端ライフスタイル生むポートランド

松本大地／商い創造研究所代表取締役



アルバータストリートを象徴する外壁  
デザインの自転車ショップ

先月米国ボートランドを視察し、連なるショッパカなどの地域なりの価値観を醸成し、街路のアイデンティティーを確立している様子が目撃した。ファンションビジネスに携わる側として、何か新しい着眼点の示唆を感じた。ボートランドの街を分析してみたい。

多様なストリート文化

り、どこの百貨店やショッピングセンターに行つても同じような環境デザイン、商品・データート構成。それも売れ筋ばかりの品揃えでは自分らしさを見つけられない。オーバーストアとか、言えばそうではなく、あつても無くてよいという店が多く、個性豊かな商品や生活に潤いを提供する店が少なくなつたといえる。その結果、ファッションやスタイルが蓄積されず、ブームとして消費されているだけであり、専門性に乏しい専門店を見つけると、ますます苟いが貧しくなっていくことを憂えている。

長年研究している米国オレゴン州ポートランドを織研ファションビジネス懇話会メンバーによると、複数体験した。参加者が驚いたのは、多様なストリート文化である。トップファッシュンが集積したストリートから、カウ

誘導策で空き店舗活用  
実は今回の観察で最もメンバーハイ評価だったのが、「アルバータストリート」である。これはボートラングのノースストリート地区に属し、古くから開発された街区であったが、周辺には多種な人種が混じり合い、当時ボートラングの中では比較的犯罪も多く治安が乱れた地域であつた。市は2000年頃から

ンターカルチャーファッションが際立つストリート、多くのアーティスト品やリサイクル品が集積したストリートなど、それそれがみ分けされてにぎわいを見せてはいるのであった。今やポートランドのトレンド発信地となつたのが「パールディストリクト」。1990年に都市計画によりこのエリアへのストリートカー(路面電車)導入が口火となり、アーバンネイバーフッドといわれる職住商が重層された理屈的な地区が誕生。今や全米有数の都市開発成功例となつた。貨物操車場や倉庫街が放置された場所を、統々コロフトン風の分譲マンションに改築、改修し、古さを新しさがブレンドされたデザインが新たな都市景観をつくる。街路の1階には時代の先端を行くレストラントンやカフェ、ライフスタイル系ショップやギャラリー、アートスクールが配置、人とモノと情報が交差するエリアになつた。

## Study Room

街路文化が安心安全なにぎわいと商いを創る

のにぎわいをつくり、安心安全な街区へと変えていったのである。毎年の進展を見るにつづけ、商業店铺は街の個性を決める大きな要因であり、個性ある街路の個店の集積には計り知れない吸引力があるとつくづく感じた。

色彩豊かな壁画や南米、メキシコ系のショットやエスニック、ストランなどが次々に並び、個性的な住環境づくりが進行していった。そのアイデンティティイーブンの心になったのが、既存の体制的な文化に対する抗争。若者文化が表現された、自由度のあるストリートデザインである。それら個性的な商品と空間とのまま切り取って東京に持つていかなくなるほどだ。最近ではパールディスクトリクトに出店しているエッジの効いたカフエやレストランもこの地区に出店するようになった。毎月最終木曜日にはラストサーズデー、アートウォークというプロック式のショッピングモールが開催される。街は活性化していく。そこでじっとしては、そこに集まることで、人々に支持され共感を得るところであり、街路にあつた楚々と、業態の組み合わせにより、それぞれの魅力が増幅され街路の世界観が創出されていく。これは大きなショッピングセンタードラム一であつても出来ないことであります。私たちが商業の近代化と並んで、私たちが商業の近代化とともに失つたものとして、土地の歴史や文化、ライフスタイルや生活習慣を尊重し、時間や空間を楽しむといった街路文化の大回帰である。今や再認識すべきである。今と昔とは、そこには必ずしも豊かな文化があるはずである。

このエリアを再開発するにあたり、街路の空き店舗を若い起業家やアーティストに居住しながら新しいビジネスを開拓していくことをねらおうと、低廉賃や起業支援など多くの誘導策をとり、エスニックなレストランやワーキングシヨン、雑貨ショッピングの誘致を進めた。そ

らしい街ナードにならなかったために、ここには多くの自転車整備店が集まっています。先端のサイクルショップやバイクカーフェア、ブルワリー、またサイクリストのマンションまで揃うなど、新つながりの自転車文化交流の場になつてきています。店に人が集まり、それに便



まつもと・だいち SC  
マーケティング、プランニ  
ングから業態開発、プロデ  
ュース業務を推進。専門誌  
や業界紙での連載やFM番

筆者が最近のポートランド街路文化で注目しているストリートがある。それは「ノース・ウエーブルームズ・アベニュ」である。ポートランダは自転車で通勤

のにぎわいをつくり、安心安全な街づくりをめざす。このように、商業店铺は街の個性を決める大きな要因であり、個性ある街路の魅力には計り知れない吸引力があるとつくづく感じる。

色彩豊かな壁画や南米、メキシコ系のショッピングエスニックレストランなどが次々に並び、個性的な商店環境づくりが進行していった。そのアイデンティティ一貫の心になったのが、既存の体制的な文化に対抗する若者文化が表現された、自由度のあるストリートデザインである。それら個性的な商品と空間をそのまま切り取つて東京に持つていきなくなるほどだ。最近ではパールディストリクトに出店しているエッジの効いたカフェやレストランものがこの地区に出てきたようになつた。毎日最終店するようになった。木曜日にはラストサーズデー・アートウォークというプロックパーティーが開催され、お祭りのよなにぎわいを見せる。「街が安全になつて、外で遊べるようになつた」と黒人の子供の大きな写真が飾られるなど、言民に対する階級文化づくりが進んでいった。その街は活性化していく。その立地になじむとは、そこに集まる人々に支持され共感を得るところであり、街路にあつた建物、業態の組み合わせにより、それぞれの魅力が増幅され街路の世界観が創出されていく。これは大きなショッピングセンターや、業態の組み合わせにより、それぞれの魅力が増幅され街路の世界観が創出されていく。史や文化、ライフスタイルや文化習慣を尊重し、時間や空間で楽しむといった街路文化の大空気であると提言したい。そこには、あると貧しいことのない豊かな文化が育まれるはずである。

このエリアを再開発するためた  
り、街路の空き店舗を若い起業  
家やアーティストに居住しなが  
ら新しいビジネスを展開しても  
らおうと、併棟賃貸や起業支援な  
どの誘導策をとり、エヌ・ツク  
レストランやファッショニ、雑  
貨ショップの誘致を進めた。そ

新しい街ナ、バーレーになつたがうに、ここには多くの自転車整備店が集い住まう。先端のサイクルショップやバイクカブエやブルワリ―またサイクリストのマンションまで揃うなど、新旧的な自転車文化交流の場になつてゐる。店に入が集り、それに囲